

SDP壁高欄を実施工へ

新世代PCa工業会 定時総会を開催

新世代PCa工業会(会長 篠田佳男氏)は11月17日、KFCホール(東京都墨田区)で第13回定時総会を開催した。総会では平成28年度事業報告・収支決算報告、平成29年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。



篠田会長

総会開催にあたり挨拶した篠田会長は「今回の総会はコンクリート技術交流会に合せて開催した。コンクリート技術交流会は被災地で開催した技術大会と合せると12回目の開催だ。当工業会を設立した翌年にスタートしており、開発した技術を情報発信しコンクリートの施工品質や信頼向上を図ることを狙いとして始めた経緯にある。技術交流会には中央ゼネコンが多数参加しているのははじめ、中堅や地場のゼネコンなどプレキヤストのユーザーが幅広く集まっている。そういう人達とネットワークを構築することはプレキヤスト

ト業界にとって非常に重要だ。プレキヤスト、生コン、建設の壁をなくして交流できる場をしっかりと作っていきたい。コンクリート技術大会でコンクリート製品企業と出会うことができ、課題解決につながったという話も聞いているが、人的なネットワークは大きな財産だ。一方、iコンストラクションでもプレキヤストは非常に重要な部分を担っており、我々もしっかりと技術的な展開ができるような体制を整備すると共に、強力なネットワークを作り上げて情報発信して、社会貢献できるような組織としたい。幸い当工業会は全国から会員社が参画している中で、是非ネットワークを利用して交流を図って欲しい。今期も新しい果実を実らせるよう皆さんの協力をお願いしたい」と述べた。

議案審議は篠田会長を議長に選出して進められ、平成28年度事業

業報告・収支決算報告、平成29年度事業計画案・予算案が原案通り可決承認された。

任期満了に伴う役員改選では、篠田佳男会長の留任を決めた。

同工業会では高耐久埋設型枠SDPフォーム(NETIS・THI120024-A)の普及拡大に取り組んでおり、今期はSDPフォーム壁高欄の実施工が予定されていることから、進捗管理と共に技術資料の整備を進める。

SDPフォーム壁高欄は近畿地方整備局発注の橋梁上部工で採用が決定している。PC2径間連続ラーメン箱桁橋(L1172・3m)の上部工に、SDPフォーム壁高欄約400mを施工するもので、実施工は平成30年8月から10月を予定している。SDPフォームの製造は会員社の東海コンクリート工業(三重県)で行う。

同工業会では既に実施工に向けた準備を開始しており、今年10月から11月にかけて、来年1月頃に予定されている試験施工に向けて基材モルタルの試験練りと予備パネルの試作を実施済み。試験施工では、実際の建設現場でパネル4枚程度を使用して、施工性とパネル改良点の有無を確認する予定併せて、施工状況の写真を活用

して壁高欄施工の技術PR資料を作成する。さらに実施工に向け5月頃、SDPフォームの製造状況を確認し、製造マニュアル整備の基礎資料とする考え。また実施工状況を確認し、施工マニュアル整備に向けた基礎データとする方針。

また、これとは別に東京セメント工業神奈川工場(神奈川県相模原市)で実施したSDPフォーム壁高欄のプレハブ化施工に関して、コンクリート打設までの試験施工を実施して、施工性の確認と技術資料の作成を行うこととしている。

SDPフォームはステンレス鉄筋で補強した高強度・高耐久性のプレキヤスト埋設型枠。水セメント比30%以下の高強度モルタルを

使用して緻密化を図り、構造体表面からの劣化因子の侵入を抑制して構造物の耐久性向上を実現する。脱型作業が不要でコンクリート工事の省人化・工期短縮に寄与し、構造物の品質も向上する。極細径のステンレス鉄筋を使用して厚さ15〜20mm程度まで薄肉・軽量化を実現。RC方式による設計が可能というメリットもある。

SDPフォーム壁高欄工法は、足場を組まずに全て内側から施工できるのが大きな特長。SDPフォームに埋め込んだトラス治具によりセパレーターとの連結も容易で、壁高欄の急速施工、安全性の向上及び耐久性などの品質向上に大きく寄与する。

理想的な高耐久性埋設型枠
「SDPフォーム」の実用化推進と
PCa製品の新たな可能性を追求
新世代PCa工業会

会長 篠田 佳男

事務局 東京都墨田区両国4-38-1
日本コンクリート技術(株)内
TEL 03-5669-6653
FAX 03-3632-2970
URL www.new-pca.gr.jp